

原点回帰のUターンで 家族も増えました！



実際に移住された人の声も聞いてみた！

温かく迎えてくれる 人とのご縁に移住を決意。

実際に移住された人の声も聞いてみた！

佐藤さんファミリーは龍治さん（33歳）と友希さん（33歳）、長女の凜子さん（10歳）、長男の龍希くん（7歳）の4人家族。神奈川県から移住し、もうすぐ1年が経とうとしています。「運命的な出会いに導かれて大分に来ました」と、友希さん。小学1、2年生のときに全国大会で優勝した実力をもつ凜子さんが憧れ、目標にしているのは「形」競技の国内外の大会で活躍する大野ひかる選手。移住前、日本武道館で大会観戦したとき、隣の席に座っていたのがたまたまた大野選手のご両親だったそうで、そのご縁があったからこそ大分への移住が実現することになりました。

のびのびと笑顔で暮らせるようになりました！

大野選手が所属している剛柔流秀徳会は、大分県空手道連盟理事長の佐藤重徳師範が率いる空手道場。2019年末に佐藤師範の道場で練



出典 2021年1月発行『田舎暮らしの本』2月号 ©宝島社・大分県

佐藤師範（左端）の指導と大野選手（右端）らと身近に接することで、「純粹に空手が好きだと思えるようになった」凜子さんと龍希くん。龍治さんと友希さんも笑顔で過ごす時間が増えました。



大分市職員で第48回全日本空手道選手権大会の女子形個人で優勝した大野選手と佐藤師範、同大会男子形個人で3位入賞の西山走選手（写真後列）とともに凜子さんと龍希くん。



家族そろって高崎山自然動物園にお出かけ。近場に遊べるスポットが多いことも大分市の魅力。

独立を目標に、グリーンツーリズムにも携わっていききたい

現在、研修生としてJAおおいた中西部事業部パセリ部会長のもとで農業を勉強中の高橋敦さん（47歳）は大分市出身。高校卒業後に上京し、サラリーマン生活を26年経験したのち、未経験の農業の世界に足を踏み入れるため、地域おこし協力隊の制度を使って大分市に帰郷しました。「会社での立場が中間管理職となり、大好きな製作の現場から離れてしまいました。40代になって自分自身を振り返った時に、やっぱりモノづくりがしたいという、強い思いに気付きました」。自分で作ったものを自分でお客さんに届けることができる仕事に就きたい。それが高橋さんの、地元で農業を志す理由になったそうです。



システムエンジニアから農家に転職。都内で開催された移住フェアで協力隊の制度を知り、移住を決めたそう。



農作業を通じた地域の方々との交流をはじめ、地域のお祭りや郷土料理に触れたことで大分市の魅力を再発見。



地域の環境整備や清掃も協力隊の大切な活動。大分で農業を始めるための人脈づくりにも役立ちました。

を目標に日々奮闘中。「まずはパセリ栽培が中心になると思います。協力隊での活動で、いろいろな品目を学ぶことができたので、パセリを軸に他の作物にも挑戦していきたいですね」。サラリーマンから農家へ転身し、自分で時間の流れをコントロールできるようなったと感じている高橋さん。子どもの頃は知らなかった地域の祭りや郷土料理などに触れることで、改めて地元の魅力に気付くことも。大分に帰ってきた自分を迎えてくれる地域の住民の温かさを実感できることも、何よりの喜びになっているそうです。「協力隊という制度を利用できたからこそ、仲間や先輩農家との出会いに恵まれたと思います。時間の使い方も変わり、将来への不安よりも楽しみや期待の方が大きくなったことも嬉しい変化。昨年11月22日の『いい夫婦の日』に、家族もできました！」